

温泉の成分・禁忌症・適応症及び入浴上の注意

(道後温泉本館 神の湯・霊の湯)

成 分		禁忌症・適応症及び入浴上の注意	
1 源泉名 道後温泉 第2分湯場 松山市道後湯之町4-30		1 禁忌症 病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期	
2 泉 質 アルカリ性単純温泉(低張性アルカリ性高温泉)		2 適応症 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、病後回復期、疲労回復、健康増進、不眠症、うつ状態	
3 泉 温 源 泉 47.8℃(気温29℃) 使用位置 42.0℃		3 浴用の方法及び注意 ア. 入浴前の注意 (ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。 (イ) 過度の疲労時には身体を休めること。 (ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。 (エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。 (オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。 (カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。 イ. 入浴方法 (ア) 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。 (イ) 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。 (ウ) 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日当たり1~2回とし、慣れてきたら2~3回まで増やしてもよいこと。 (エ) 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。 ウ. 入浴中の注意 (ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。 (イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起さないようにゆっくり出ること。 (ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。 エ. 入浴後の注意 (ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で流した方がよいこと。) (イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。 オ. 湯あたり 温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。 カ. その他 浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。	
4 温泉の成分 (1) pH値 9.1 (2) ラドン含有量 検出せず (3) 試料1kg中の成分:分量及び組成			
イ 陽イオン			
成分	ミリグラム(mg)	ミリバール(mval)	ミリバール%(mval%)
リチウムイオン	0.1	0.01	0.30
ナトリウムイオン	72.2	3.14	93.73
カリウムイオン	1.3	0.03	0.90
カルシウムイオン	3.4	0.17	5.07
陽イオン 計	77.0	3.35	100.00
ロ 陰イオン			
成分	ミリグラム(mg)	ミリバール(mval)	ミリバール%(mval%)
フッ素イオン	12.6	0.66	20.37
塩素イオン	28.3	0.80	24.69
水酸化物イオン	0.2	0.01	0.31
硫酸イオン	21.4	0.45	13.89
炭酸水素イオン	68.5	1.12	34.57
炭酸イオン	6.1	0.20	6.17
陰イオン 計	137.1	3.24	100.00
ハ 遊離成分 非解離成分			
成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)	
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	49.8	0.64	
メタホウ酸(HBO ₂)	4.5	0.10	
非解離成分 計	54.3	0.74	
ニ 溶存物質(ガス性のものを除く) 0.2684g/kg 溶存ガス成分			
成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)	
溶存ガス成分 計	0.0	0.00	
ホ 成分総計 0.2684g/kg			
ヘ その他微量成分			
アンモニウムイオン	0.1 mg未満	総水銀	0.0005 mg未満
マグネシウムイオン	0.1 mg未満	鉛イオン	0.001 mg未満
ストロンチウムイオン	0.05 mg未満	臭素イオン	0.1 mg未満
バリウムイオン	0.1 mg未満	ヨウ素イオン	0.1 mg未満
アルミニウムイオン	0.05 mg未満	総硫化水素	0.05 mg未満
総クロム	0.005 mg未満	チオ硫酸イオン	0.1 mg未満
マンガンイオン	0.005 mg未満	亜硝酸イオン	0.1 mg未満
鉄(II)イオン(フェロイ)	0.05 mg未満	硝酸イオン	0.1 mg未満
鉄(III)イオン(フェリイ)	0.05 mg未満	リン酸イオン	0.1 mg未満
銅イオン	0.005 mg未満	総ヒ素	0.005 mg未満
亜鉛イオン	0.005 mg未満	セレン	0.001 mg未満
カドミウムイオン	0.0005 mg未満		
5 温泉の分析年月日 平成26年 1月 9日		4 禁忌症及び適応症決定年月日 平成26年 8月12日	
6 登録分析機関の名称及び登録番号 愛媛県立衛生環境研究所 第1号 平成14年4月4日			

成分に影響を与える項目

1. 加水している場合 _____	4. 入浴剤等を添加している場合 _____
2. 加温している場合 _____	5. 消毒処理している場合 衛生管理のため塩素系薬剤を毎年使用しています。
3. 循環利用をしている場合 _____	

温泉の成分・禁忌症・適応症及び入浴上の注意

(道後温泉 椿の湯)

成 分				禁忌症・適応症及び入浴上の注意			
1 源泉名 道後温泉 第1分湯場 松山市道後湯之町19-22				1 禁忌症 病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期 2 適応症 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、病後回復期、疲労回復、健康増進、不眠症、うつ状態 3 浴用の方法及び注意 ア. 入浴前の注意 (ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。 (イ) 過度の疲労時には身体を休めること。 (ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。 (エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。 (オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。 (カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。 イ. 入浴方法 (ア) 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。 (イ) 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。 (ウ) 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日当たり1~2回とし、慣れてきたら2~3回まで増やしてもよいこと。 (エ) 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。 ウ. 入浴中の注意 (ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。 (イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起さないようにゆっくり出ること。 (ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。 エ. 入浴後の注意 (ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で流した方がよいこと。) (イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。 オ. 湯あたり 温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。 カ. その他 浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。			
2 泉質 アルカリ性単純温泉(低張性アルカリ性高温泉)							
3 泉温 源泉 47.7℃(気温25℃) 使用位置 42.0℃							
4 温泉の成分 (1) pH値 9.1 (2) ラドン含有量 検出せず (3) 試料1kg中の成分:分量及び組成							
イ 陽イオン							
成分	ミリグラム(mg)	ミリバール(mval)	ミリバール%(mval%)				
リチウムイオン	0.1	0.01	0.30				
ナトリウムイオン	70.2	3.05	92.99				
カリウムイオン	1.3	0.03	0.91				
カルシウムイオン	3.9	0.19	5.79				
陽イオン 計	75.5	3.28	99.99				
ロ 陰イオン							
成分	ミリグラム(mg)	ミリバール(mval)	ミリバール%(mval%)				
フッ素イオン	12.5	0.66	21.09				
塩素イオン	27.8	0.78	24.92				
水酸化物イオン	0.2	0.01	0.32				
チオ硫酸イオン	0.1	0.00	0.00				
硫酸イオン	17.7	0.37	11.82				
炭酸水素イオン	67.7	1.11	35.46				
炭酸イオン	5.9	0.20	6.39				
陰イオン 計	131.9	3.13	100.00				
ハ 遊離成分 非遊離成分							
成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)					
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	50.6	0.65					
メタホウ酸(HBO ₂)	4.3	0.10					
非遊離成分 計	54.9	0.75					
ニ 溶存物質(ガス性のものを除く) 0.2623g/kg 溶存ガス成分							
成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(mmol)					
溶存ガス成分 計	0.0	0.00					
ホ 成分総計 0.2623g/kg							
ヘ その他微量成分							
アンモニウムイオン	0.1 mg未満	カドミウムイオン	0.0005 mg未満				
マグネシウムイオン	0.1 mg未満	総水銀	0.0005 mg未満				
ストロンチウムイオン	0.05 mg未満	鉛イオン	0.001 mg未満				
バリウムイオン	0.1 mg未満	臭素イオン	0.1 mg未満				
アルミニウムイオン	0.05 mg未満	ヨウ素イオン	0.1 mg未満				
総クロム	0.005 mg未満	総硫化水素	0.05 mg未満				
マンガンイオン	0.005 mg未満	亜硝酸イオン	0.1 mg未満				
鉄(II)イオン(フェロイ)	0.05 mg未満	硝酸イオン	0.1 mg未満				
鉄(III)イオン(フェリイ)	0.05 mg未満	リン酸イオン	0.1 mg未満				
銅イオン	0.005 mg未満	総ヒ素	0.005 mg				
亜鉛イオン	0.005 mg未満	セレン	0.001 mg未満				
5 温泉の分析年月日 平成26年 1月 9日							
6 登録分析機関の名称及び登録番号 愛媛県立衛生環境研究所 第1号 平成14年4月4日							
				松 山 市 			

成分に影響を与える項目

1. 加水している場合 _____	4. 入浴剤等を添加している場合 _____
2. 加温している場合 _____	5. 消毒処理している場合 衛生管理のため塩素系薬剤を毎年使用しています。
3. 循環利用をしている場合 _____	